



平成19年5月11日

各位

会社名 株式会社 葵プロモーション
 代表者 代表取締役社長 高瀬 哲
 (コード番号9607 東証第一部)
 問合せ先 専務取締役 八重樫 悟
 TEL03(3779)8000

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年2月7日の第3四半期財務・業績の概況発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 19年3月期個別業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	13,000	695	315
今回修正予想(B)	13,334	692	162
増減額(B-A)	334	△3	△153
増減率	2.6	△0.4	△48.6
(ご参考)前期(平成18年3月期)実績	12,285	976	538

(ご参考) 1株当たり予想当期純利益 13円31銭

2. 19年3月期連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	14,350	535	245
今回修正予想(B)	14,832	581	133
増減額(B-A)	482	46	△112
増減率	3.4	8.6	△45.7
(ご参考)前期(平成18年3月期)実績	13,371	1,002	577

(ご参考) 1株当たり予想当期純利益 10円93銭

3. 理由

平成19年2月7日、厳しい経営環境及び第3四半期の業績を踏まえ、業績予想の修正をしましたが、その後発生した下記の要因に伴い、改めて前回発表予想を修正するものです。

<プラス要因>

- ① 厳しい経営環境の中、当社及び㈱葵デジタルクリエーションを中心に売上が積み上げることができた。
- ② 委託機関の運用成績が良く、期末の年金資産残高が積み上がったことから、適格退職年金制度に係る予定利率引下げに伴う退職給付費用の増加を最小限に止めることができた。
- ③ その他の社内経費の増加を最小限に止めることができた。

<マイナス要因>

- ① 落ち着きつつはあるものの、大型作品を中心として制作原価率が上昇傾向にある。
- ② 劇場用映画制作請負契約書等に基づき制作した作品について、請負代金支払遅延に伴いたな卸資産評価損269百万円が発生した。
- ③ 投資有価証券評価損27百万円及び会員権評価損34百万円が発生した。

なお、期末配当金につきましては、当初公表通り、前期と同様1株当たり18円（年間23円）とする予定であります。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上